

【佳作（環境生活部長賞）】

明るい未来のために

仙台市立郡山中学校
三年 青田幸呼

私が初めて水の大切さに気づいたのは、沖縄に行ったときだった。

私は、小学生のときに家族で沖縄へ旅行に行った。沖縄の海は、透き通ったエメラルドグリーンで、想像を絶するほど綺麗だった。滞在中、シュノーケルやシーウォークなど、様々な体験を通して、私は沖縄の海を体全体で感じた。沖縄で味わったあの感動を、今でも思いだし没頭することがある。

しかし、沖縄旅行から数年たったある日、ニュースで見たあることにとっても悲しみを覚えた。それは、サンゴの死滅だ。そして、その原因は海の環境ストレスや環境汚染にあるという。環境ストレスとは、地球温暖化による海面や海水温の上昇などがあるらしい。これらが重なって、結果的にサンゴの死滅などの生態系の破壊が起こっているという。あの沖縄の海や世界中の海が汚染されてしまうのは、とても悲しいと思った。

私が環境問題に興味を持ったのは海を直接的に感じる、という特別な体験をしたからこそであるが、我々の身近なところでも環境問題について考えられる機会はあると思う。

私が住んでいる宮城県は、牛タンやずんだ餅など、特有な食べ物がたくさんある。中でも、私が好きなのは、はらこ飯だ。はらこ飯というのは、鮭の身を煮こんだ汁でご飯をたき、鮭といくらをのせた名物料理だ。このはらこ飯には、鮭や鮭の卵であるいくらが必要不可欠で、そして私が小学生のころは秋になると毎週というほど食べていた。しかし昨年は4回ほどしか食べていない。調べてみると、鮭の不漁は海水温の上昇が主な原因ということが分かった。海の環境変化は本当に深刻なのだと身にしみて感じ

た。

私は、これらの問題を放っておいてはいけなさと、危機感を覚えた。そこで私は、サンゴの死滅や鮭の不漁の原因になっている、海水温上昇について調べた。調べて分かったのは「根本的な解決のためには温室効果ガスの削減が必要」ということだ。そこで温室効果ガスの削減を進めるために効果的で、日々できる対策を始めた。

一つ目は、エアコンに頼りすぎないことだ。例えば、夏に冷房を使う場合。このような時は、エアコンの設定温度を低くしすぎないようにする。そして扇風機も使ってみた。設定温度は高めになっていたけれど、意外と快適にすごすことができた。このように少しでも工夫をすることが大切だと分かった。

二つ目は、自家用車の使用を控えることだ。調べてみると、「日本の運輸部門での一年間の二酸化炭素の排出量は約一億八千五百万トン」ということが分かった。つまり日本の二酸化炭素の排出量のうち、運輸部門だけで全体の二十パーセントを占めている。内訳も調べてみると、「自家用車が約五十パーセント」になっていることも分かった。対して、バスや鉄道、自転車は合わせて「六パーセント」なので、バスや鉄道、自転車を使用する方が温室効果ガスの削減につながるのだ。

このように、毎日の小さな工夫で、地球温暖化の進行を抑えることができる。地球温暖化の進行を遅らせることができれば、私が興味を持った「海の環境変化」の問題以外にも、異常気象や大雨、干ばつなどの他の問題も解決できるのだ。今、世界中で地球温暖化の抑制が叫ばれている。地球の7割をおおっている、「水」。これを改めて考えてみてほしい。それが、明るい未来への第一歩だと私は思う。